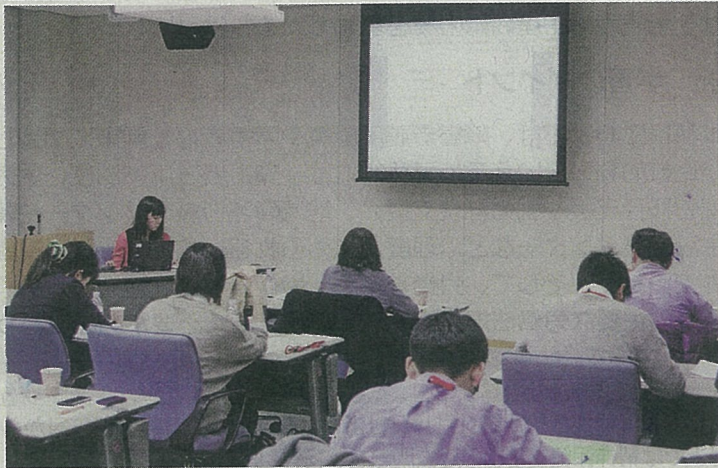


2013年（平成25年）4月22日

障害者支援で出稽古 日本財団が人材育成

職場を飛び出して、ユニークな実践をする障害者福祉事業所の支援手法などを学ぶ「出稽古プログラム」の報告会が12日、開かれた。日本財団が人材育



出稽古の成果を披露した報告会

成を目的に2012年度から正式に始めたもの。参加した16人が5～10日間にわたる修了（北海道）の山本亜樹乃さんは、就労移行支

援A型事業所などを運営するNPO法人ワークスみらい高知（高知）に出向。地元のお茶を使ったカフェなどで、さまざまなイベントを開くなど枠を越えた発想の大切さを学んだという。北海道でカフェを運営する山本さんは「飲食の場だけでなく、コミュニケーションとしてどう機能させるかを考えたい」と語った。

また、社会福祉法人心愛会（福島）の若林新伍さんは、豊生らと語るか（愛知）でタリーズコーヒージャパンなどの企業と協働する現場などを見て、地域への要求だけでなく、お互いの強みを踏まえた提案が大切だと実感したという。「地域資源のことをもっと知り、当たり前前に障害のある人が働けるためのネットワークづくりをした」と話した。

日本財団ではこうした出稽古を13年度も実施する予定。6カ月間の長期プログラムなども検討する。同財団の原田貴美子さんは「制度にとらわれない高度で複雑な能力を身に付けられるお手伝いができれば」と話した。